

# 来週の「売り物記事」はこれ



2018年1月26日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## IS支配地に渡った娘を取り戻す

### チェチェン 母親たちの闘い

28日(日)



イスラム教徒が多いロシア南部のチェチェンから、幼い子供と中東に渡った数千人の若い女性たちが行方不明になっています。過激派組織「イスラム国」(IS)の戦闘員になった夫についていったことを親たちは知りませんでした。ベラント・ズルガエワさん(68)は、ISの支配地だったイラク・モスルから帰還した幼い3



人の孫を世話しながら、イラクで拘束されているとみられる娘を捜しています。娘を取り戻そうと立ち上がったチェチェンの母親たち=写真=の姿に迫ります。

筆者はモスクワ支局の杉尾直哉記者です。

## 人気アーティストがカバー、カラオケでも歌われ…

### 山口百恵さんと平成の若者たち

夕刊特集ワイド 29日(月)



昭和を代表する伝説のアイドル、山口百恵さん=写真=が再注目されています。昨年、長男の三浦祐太郎さんが母のカバーアルバムを発表。人気上昇中の女性アーティスト、シシド・カフカさんも「好きなアーティスト」に挙げ、平成生まれの若者たちがカラオケで百恵さんのヒット曲を歌っています。リアルタイムでの活躍を知らない世代での人気ぶりは何を意味しているのか。彼女の生き方をたどりながら、考えました。

## センバツ企画 「駆け抜けた1世紀」

社会面 28日(日)から

第90回記念大会となるセンバツ高校野球は、第1回(1924年)から戦中の中断を経て1世紀近い歴史があります。激動や混迷の時代に生きた選手が、どんな思いでプレーしたのか、また野球が選手にもたらしたものは何だったのか——。敗戦直後の47年大会、沖縄の本土復帰後の71年大会、東日本大震災後の2012年大会などに出場した選手らの証言を基に、5回にわたってセンバツの歩みを描きます。



## プラスα 高次脳機能障害の家族の介護

くらしナビA面 2月1日(木)



音楽家の小室哲哉さんが芸能界からの引退を表明し、会見で妻の高次脳機能障害の介護をしていることを明かしたことが、大きな話題を呼びました。高次脳機能障害とは病気や事故で脳が損傷したため、記憶や思考に障害が起こることです。日常生活に支障が出て、家族の介護が必要になるケースもでてきます。症状や介護の苦労について、体験者に語っていただきました。

## ハマりました ジャンクション好き

くらしナビB面 31日(水)

複数の道路が立体的に交差する「ジャンクション」は車を運転する人にはおなじみの存在です。何層にも重なり、曲がり、別々の方向に流れていく道路を見て楽しむ人たちがいます。巨大な構造物に近づいて地上から見上げる「下から」派、高い建物や空撮写真、地図から確認する「上から」派も、それぞれいるほど。「下から」派の男性が魅力を熱く語ります。



## 女の気持ちをたずねて



サラダぼうる

29日(月)



くらしナビ面の人気コーナー「女の気持ち」の投稿者を記者が訪ねます。今回は、70歳すぎても中学校で「おばあちゃん先生」として活躍する神戸市の乾康子さん(71)。教師を退職後も支援員として学校に残った乾さん。受験のお守りに必勝鉢巻きを着けた真っ赤なタコのぬいぐるみ「置くとパス」を作るなど、ユニークな活動で生徒たちから親しまれています。

## 「平成の軌跡」第1回

### 日本の貧困～「年越し派遣村」の教訓

オピニオン面 [論点] 31日(水)

2008年から09年にかけての年末年始、私たちは現代日本の「貧困」と向き合うよう迫られました。東京・日比谷公園にできた「年越し派遣村」。仕事と住まいを失った派遣労働者たちが集まり、セーフティーネットのもろさを突き付けました。平成時代に表面化し、残された課題を取り上げるシリーズの第1回、「村長」を務めた湯浅誠氏＝写真＝と当時を振り返ります。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。



## 読み解きワード 子どもの社会的養護

医療・福祉面 31日(水)



虐待などにより親元で暮らせない子を育てる「社会的養護」の形が変わろうとしています。日本では8割近くの子が乳児院や児童養護施設などで集団生活していますが、海外の先進国に比べてその割合が高く、厚生労働省は里親など家庭的な環境で育てるのを基本とする新たな数値目標を掲げました。現状や課題を、大型図版付きで丁寧に解説します。

## 平昌への熱い思いを語る

### コラム「アスリート交差点」特別編

スポーツ面 2月2日(金)

世界の第一線で奮闘するアスリートたちが、自らの言葉でスポーツへの情熱を語るスポーツ面の人気コラム「アスリート交差点」。その特別編として、平昌冬季五輪代表に選ばれた筆者たち——渡部暁斗(ノルディックスキー複合)、高梨沙羅(スキージャンプ)、高木菜那(スピードスケート)、竹内智香(スノーボード)、両角友佑(カーリング)、小野塚彩那(スキーハーフパイプ)の6選手が、五輪本番に向けた意気込みを語ります。

